



# Press release

2020年12月4日

## アクサダイレクト生命

### 2020年度第2四半期（4月1日～9月30日）の業績を発表

アクサダイレクト生命保険株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長兼 CEO：住谷貢）は、2020年12月4日、日本会計基準に基づく2020年度第2四半期の業績を発表いたしました。

#### 収入指標

- ・ 新契約件数は前年同期比4.3%増の19,660件、保有契約件数は前年度末比9.2%増の165,664件、保険料等収入は前年同期比41.6%増の4,127百万円となりました。

#### 収益指標

- ・ 経常収益が4,235百万円となる中、経常費用4,336百万円（うち、保険金等支払金1,102百万円、責任準備金等繰入額1,064百万円、事業費2,085百万円、その他経常費用83百万円）、法人税等合計△25百万円を控除した結果、当期純損失は75百万円となりました。

#### 財務基盤

ソルベンシー・マージン比率は1,284.7%となっており、十分に高い健全性を確保しております。

#### アクサダイレクト生命について

アクサダイレクト生命は、2008年4月より営業を開始した日本初のインターネット専業生命保険会社です。アクサ・ホールディングス・ジャパン株式会社のダイレクトビジネスを担う生命保険会社として、アクサ生命、アクサ損害保険と相互に連携し、シンプルで合理的かつ手頃な保険商品、デジタル技術を活用した便利で革新的なサービスをご提供しています。お客さまがいつでもどこでも安心してご契約いただけるよう、様々なタッチポイントで保険選びをサポートしています。

#### アクサグループについて

アクサは世界57ヶ国で16万人の従業員を擁し、1億800万人のお客さまにサービスを提供する、保険および資産運用分野の世界的なリーディングカンパニーです。国際会計基準に基づく2019年度通期の売上は1,035億ユーロ、アンダーライティング・アーニングスは65億ユーロ、2019年12月31日時点における運用資産総額は9,690億ユーロにのびます。アクサはユーロネクスト・パリのコンパートメントAに上場しており、アクサの米国預託株式はOTC QXプラットフォームで取引され、ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス（DJSI）やFTSE4GOODなどの国際的な主要SRIインデックスの構成銘柄として採用されています。また、国連環境計画・金融イニシアチブ（UNEP FI）による「持続可能な保険原則」および「責任投資原則」に署名しています。

\*上記のアクサグループ数値は2019年度のもの

本件に関するお問い合わせは下記までお願いいたします

アクサダイレクト生命保険株式会社

ダイレクトマーケティング部 広報

TEL：03-5210-1540 FAX：03-5210-1542

E-mail：communication@axa-direct-life.co.jp

<https://www.axa-direct-life.co.jp/>

## 2020年度 第2四半期（上半期）報告

アクサダイレクト生命（代表取締役社長兼 CEO 住谷 貢）の2020年度第2四半期（上半期）の業績は添付のとおりです。

### <目次>

1. 主要業績	……	1 頁
2. 一般勘定資産の運用状況	……	3 頁
3. 資産運用の実績（一般勘定）	……	4 頁
4. 中間貸借対照表	……	7 頁
5. 中間損益計算書	……	8 頁
6. 中間株主資本等変動計算書	……	9 頁
7. 経常利益等の明細（基礎利益）	……	12 頁
8. 債務者区分による債権の状況	……	12 頁
9. リスク管理債権の状況	……	12 頁
10. ソルベンシー・マージン比率	……	13 頁
11. 特別勘定の状況	……	13 頁
12. 保険会社及びその子会社等の状況	……	13 頁

以上

---

お問い合わせは、次にお問い合わせいたします。

アクサダイレクト生命保険株式会社 ダイレクトマーケティング部 広報担当 03-5210-1540

## 1. 主要業績

### (1) 保有契約高及び新契約高

#### ・保有契約高

(単位：千件、億円、%)

区 分	2019年度末		2020年度 第2四半期(上半期)末			
	件 数	金 額	件 数	金 額		
				前年度 末比	前年度 末比	
個 人 保 険	151	6,865	165	109.2	7,363	107.3
個人年金保険	-	-	-	-	-	-
団 体 保 険	-	-	-	-	-	-
団体年金保険	-	-	-	-	-	-

#### ・新契約高

(単位：千件、億円、%)

区 分	2019年度 第2四半期(上半期)				2020度 第2四半期(上半期)					
	件 数	金 額			件 数	金 額				
		新契約	転換による 純増加			前年 同期比	前年 同期比	新契約	転換による 純増加	
個 人 保 険	18	590	590	-	19	104.3	824	139.5	824	-
個人年金保険	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
団 体 保 険	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
団体年金保険	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

## (2) 年換算保険料

### ・保有契約

(単位：百万円、%)

区 分	2019年度末	2020年度	
		第2四半期(上半期)末	前年度 末比
個 人 保 険	6,126	6,729	109.8
個 人 年 金 保 険	-	-	-
合 計	6,126	6,729	109.8
うち医療保障・ 生前給付保障等	3,460	3,859	111.5

### ・新契約

(単位：百万円、%)

区 分	2019年度		前年 同期比
	第2四半期(上半期)	2020年度 第2四半期(上半期)	
個 人 保 険	749	815	108.8
個 人 年 金 保 険	-	-	-
合 計	749	815	108.8
うち医療保障・ 生前給付保障等	539	527	97.9

(注) 1. 年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額です(一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額)。

2. 「医療保障・生前給付保障等」については、医療保障給付(入院給付、手術給付等)、生前給付保障給付(特定疾病給付、介護給付等)、保険料払込免除給付(障害を事由とするものは除く。特定疾病罹患、介護等を事由とするものを含む)等に該当する部分の年換算保険料を計上しています。

## 2. 一般勘定資産の運用状況

### (1) 運用環境

2020年度上半期の運用環境は、米中貿易摩擦や新型コロナウイルスの感染拡大による世界景気の後退懸念がある一方、ワクチンの早期開発期待、経済再開の動きや期待感などにより、世界の株式市場は概ね上昇いたしました。

米連邦準備制度理事会（FRB）は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、3月以降、大規模な金融緩和政策を継続しています。同様に、欧州中央銀行（ECB）も金融緩和政策を維持しており、6月にはPEPP（パンデミック緊急購入プログラム）の拡大と延長を決定しています。日本銀行は、3月から5月にかけて、資産買入強化や企業金融支援等の新型コロナ対策を打ち出し、6月には企業等の資金繰り支援策について「特別プログラム」の総枠の拡大を発表しました。一方、金融政策は6月以降据え置いています。

日本国債利回りは、日銀が資産買い入れ額を増額するとの観測が高まり、4月下旬に利回りは一時低下しましたが、今後の大規模経済対策のための国債増発が金利上昇圧力となり、5月中旬以降、10年日本国債利回りはプラス圏で推移、9月末終値は0.016%となっております。日経平均株価は、経済再開への動きや期待感の広がりなどにより、新型コロナ感染拡大による急落から反発しました。5月下旬に緊急事態宣言が解除されたことを好感し6月には一時23,000円台まで上昇しました。8月には安倍首相の辞任を受け下落する局面もありましたが、新政権への期待感もあり、9月末の日経平均株価は23,185円で終値をつけております。

### (2) 運用方針

当社では、引続き、資産の流動性を十分に確保したポートフォリオ運営を行います。具体的には預金と日本国債への投資を運用方針の基本とし、流動性に関しては適切なコントロールを行いつつ、信用リスクも適切な範囲内に抑え、中長期的にも安定した健全なポートフォリオの構築を目指しています。

### (3) 運用実績の概況

2020年9月末の総資産は128億円となりました。そのうち、現金及び預貯金が108億円、有価証券は保有しておりません。

資産運用損益につきましては、利息収入が0百万円、支払利息が0百万円となりました。

### 3. 資産運用の実績（一般勘定）

#### (1) 資産の構成

(単位：百万円、%)

区 分	2019年度末		2020年度 第2四半期(上半期)末	
	金 額	占 率	金 額	占 率
現 預 金 ・ コ ー ル ロ ー ン	10,234	86.4	10,889	84.6
買 現 先 勘 定	-	-	-	-
債 券 貸 借 取 引 支 払 保 証 金	-	-	-	-
買 入 金 銭 債 権	-	-	-	-
商 品 有 価 証 券	-	-	-	-
金 銭 の 信 託	-	-	-	-
有 価 証 券	-	-	-	-
公 社 債	-	-	-	-
株 式	-	-	-	-
外 国 証 券	-	-	-	-
公 社 債	-	-	-	-
株 式 等	-	-	-	-
そ の 他 の 証 券	-	-	-	-
貸 付 金	-	-	-	-
不 動 産	33	0.3	40	0.3
繰 延 税 金 資 産	197	1.7	233	1.8
そ の 他	1,378	11.6	1,712	13.3
貸 倒 引 当 金	-	-	-	-
合 計	11,843	100.0	12,876	100.0
う ち 外 貨 建 資 産	-	-	-	-

#### (2) 資産の増減

(単位：百万円)

区 分	2019年度 第2四半期(上半期)	2020年度 第2四半期(上半期)
現 預 金 ・ コ ー ル ロ ー ン	389	654
買 現 先 勘 定	-	-
債 券 貸 借 取 引 支 払 保 証 金	-	-
買 入 金 銭 債 権	-	-
商 品 有 価 証 券	-	-
金 銭 の 信 託	-	-
有 価 証 券	-	-
公 社 債	-	-
株 式	-	-
外 国 証 券	-	-
公 社 債	-	-
株 式 等	-	-
そ の 他 の 証 券	-	-
貸 付 金	-	-
不 動 産	△ 2	7
繰 延 税 金 資 産	14	36
そ の 他	△ 187	333
貸 倒 引 当 金	-	-
合 計	213	1,032
う ち 外 貨 建 資 産	-	-

### (3) 資産運用収益

(単位：百万円)

区 分	2019年度 第2四半期(上半期)	2020年度 第2四半期(上半期)
利息及び配当金等収入	0	0
預貯金利息	0	0
有価証券利息・配当金	-	-
貸付金利息	-	-
不動産賃貸料	-	-
その他利息配当金	-	-
商品有価証券運用益	-	-
金銭の信託運用益	-	-
売買目的有価証券運用益	-	-
有価証券売却益	-	-
国債等債券売却益	-	-
株式等売却益	-	-
外国証券売却益	-	-
その他	-	-
有価証券償還益	-	-
金融派生商品収益	-	-
為替差益	-	-
貸倒引当金戻入額	-	-
その他運用収益	-	-
合 計	0	0

### (4) 資産運用費用

(単位：百万円)

区 分	2019年度 第2四半期(上半期)	2020年度 第2四半期(上半期)
支払利息	0	0
商品有価証券運用損	-	-
金銭の信託運用損	-	-
売買目的有価証券運用損	-	-
有価証券売却損	-	-
国債等債券売却損	-	-
株式等売却損	-	-
外国証券売却損	-	-
その他	-	-
有価証券評価損	-	-
国債等債券評価損	-	-
株式等評価損	-	-
外国証券評価損	-	-
その他	-	-
有価証券償還損	-	-
金融派生商品費用	-	-
為替差損	-	-
貸倒引当金繰入額	-	-
貸付金償却	-	-
賃貸用不動産等減価償却費	-	-
その他運用費用	-	-
合 計	0	0

**(5) 売買目的有価証券の評価損益**

該当する事項はありません。

**(6) 有価証券の時価情報（売買目的有価証券以外の有価証券のうち時価のあるもの）**

該当する事項はありません。

**(7) 金銭の信託の時価情報**

該当する事項はありません。

#### 4. 中間貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	期 別	2019年度末 要約貸借対照表 (2020年3月31日現在)	2020年度 中間会計期間末 (2020年9月30日現在)
		金 額	金 額
( 資 産 の 部 )			
現 金 及 び 預 貯 金		10,234	10,889
有 形 固 定 資 産		95	104
無 形 固 定 資 産		463	531
再 保 険 貸		124	800
そ の 他 資 産		728	316
繰 延 税 金 資 産		197	233
貸 倒 引 当 金		-	-
資 産 の 部 合 計		11,843	12,876

( 負 債 の 部 )			
保 険 契 約 準 備 金		10,025	10,987
支 払 備 金		348	245
責 任 準 備 金		9,677	10,741
代 理 店 借		41	46
再 保 険 借		95	253
そ の 他 負 債		407	389
未 払 法 人 税 等		5	2
資 産 除 去 債 務		17	17
そ の 他 の 負 債		384	369
役 員 退 職 慰 労 引 当 金		4	5
価 格 変 動 準 備 金		0	0
負 債 の 部 合 計		10,575	11,683

( 純 資 産 の 部 )			
資 本 金		11,000	11,000
資 本 剰 余 金		9,840	9,840
資 本 準 備 金		9,840	9,840
利 益 剰 余 金		△ 19,572	△ 19,647
そ の 他 利 益 剰 余 金		△ 19,572	△ 19,647
繰 越 利 益 剰 余 金		△ 19,572	△ 19,647
株 主 資 本 合 計		1,268	1,192
評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計		-	-
純 資 産 の 部 合 計		1,268	1,192
負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計		11,843	12,876

## 5. 中間損益計算書

(単位：百万円)

科 目	期 別	2019年度 中間会計期間 〔 2019年4月1日から 2019年9月30日まで 〕	2020年度 中間会計期間 〔 2020年4月1日から 2020年9月30日まで 〕
		金 額	金 額
経 常 収 益		2,920	4,235
保 険 料 等 収 入		2,915	4,127
（うち保険料）	（	2,748）	（ 3,310）
資 産 運 用 収 益		0	0
（うち利息及び配当金等収入）	（	0）	（ 0）
そ の 他 経 常 収 益		4	108
経 常 費 用		3,803	4,336
保 険 金 等 支 払 金		1,093	1,102
（うち保険金）	（	445）	（ 321）
（うち年金）	（	10）	（ 20）
（うち給付金）	（	387）	（ 400）
（うち解約返戻金）	（	67）	（ 50）
（うちその他返戻金）	（	0）	（ 0）
責 任 準 備 金 等 繰 入 額		918	1,064
支 払 備 金 繰 入 額		6	-
責 任 準 備 金 繰 入 額		912	1,064
資 産 運 用 費 用		0	0
（うち支払利息）	（	0）	（ 0）
事 業 費		1,738	2,085
そ の 他 経 常 費 用		52	83
経 常 損 失 （ △ ）		△ 883	△ 101
特 別 利 益		-	-
特 別 損 失		0	-
税 引 前 中 間 純 損 失 （ △ ）		△ 883	△ 101
法 人 税 及 び 住 民 税		△ 196	10
法 人 税 等 調 整 額		△ 14	△ 36
法 人 税 等 合 計		△ 211	△ 25
中 間 純 損 失 （ △ ）		△ 671	△ 75

## 6. 中間株主資本等変動計算書

2019 年度中間会計期間

(2019 年 4 月 1 日から 2019 年 9 月 30 日まで)

(単位：百万円)

	株主資本						純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本 合計	
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金	利益剰余金 合計		
				繰越利益 剰余金			
当期首残高	10,500	9,340	9,340	△ 18,091	△ 18,091	1,749	1,749
当中間期変動額							
新株の発行	-	-	-	-	-	-	-
剰余金の配当				-	-	-	-
中間純損失				△ 671	△ 671	△ 671	△ 671
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額）							-
当中間期変動額合計	-	-	-	△ 671	△ 671	△ 671	△ 671
当中間期末残高	10,500	9,340	9,340	△ 18,763	△ 18,763	1,077	1,077

2020 年度中間会計期間

(2020 年 4 月 1 日から 2020 年 9 月 30 日まで)

(単位：百万円)

	株主資本						純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本 合計	
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金	利益剰余金 合計		
				繰越利益 剰余金			
当期首残高	11,000	9,840	9,840	△ 19,572	△ 19,572	1,268	1,268
当中間期変動額							
新株の発行	-	-	-	-	-	-	-
剰余金の配当				-	-	-	-
中間純損失				△ 75	△ 75	△ 75	△ 75
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額）							-
当中間期変動額合計	-	-	-	△ 75	△ 75	△ 75	△ 75
当中間期末残高	11,000	9,840	9,840	△ 19,647	△ 19,647	1,192	1,192

## 注記事項

(中間貸借対照表関係)

2020年度中間会計期間末

### 1. 会計方針に関する事項

#### (1) 有形固定資産の減価償却の方法

有形固定資産の減価償却の方法は、次の方法によっております。

##### ① 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法（ただし、建物（2016年3月31日以前に取得した附属設備、構築物を除く）については定額法）を採用しております。

##### ② リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産は、残存価額を零とする定額法を採用しております。

#### (2) 無形固定資産の減価償却の方法

利用可能期間（主として5年）に基づく定額法によっております。

#### (3) 引当金の計上方法

##### ① 貸倒引当金

貸倒引当金は、資産の自己査定基準及び償却・引当基準を準用して、次のとおり計上しております。破産、民事再生等、法的・形式的な経営破綻の事実が発生している債務者（以下「破綻先」という）に対する債権及び実質的に経営破綻に陥っている債務者（以下「実質破綻先」という）に対する債権については、下記直接減額後の債権額から担保の回収可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現状、経営破綻の状況にはないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（以下「破綻懸念先」という）に対する債権については、債権額から担保の回収可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率を債権額に乗じた額を計上しております。

##### ② 役員退職慰労引当金

役員退職慰労引当金は、役員に対する退職慰労金の支給に備えるため、支給見込額のうち、当中間期末において発生したと認められる額を計上しております。

#### (4) 価格変動準備金の計上方法

価格変動準備金は、保険業法第115条の規定に基づき算出した額を計上しております。

#### (5) 消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税込方式によっております。

#### (6) 責任準備金の積立方法

責任準備金は、保険業法第116条の規定に基づく準備金であり、保険料積立金については金融庁長官が定める方式（平成8年大蔵省告示第48号）により計算しております。

### 2. 主な金融資産及び金融負債にかかる中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。

(単位：百万円)

	中間貸借対照表計上額	時価	差額
現金及び預貯金	10,889	10,889	—

(注) 現金及び預貯金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから当該帳簿価額によっております。

### 3. 有形固定資産の減価償却累計額（リース資産含む）は109百万円であります。

### 4. 関係会社に対する金銭債権の総額は21百万円、金銭債務はありません。

### 5. 繰延税金資産の総額は、941百万円、繰延税金負債の総額は、2百万円であります。繰延税金資産のうち評価性引当額として控除した額は、705百万円であります。繰延税金資産の発生の主な原因別内訳は、繰越欠損金678百万円であります。繰延税金資産から評価性引当額として控除された額のうち、税務上の繰越欠損金に係る評価性引当金額は678百万円、将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当金額は27百万円であります。繰延税金負債の発生の主な原因別内訳は、資産除去債務に対応する資産2百万円であります。

### 6. 保険業法施行規則第73条第3項において準用する同規則第71条第1項に規定する再保険を付した部分に相当する支払備金（以下「出再支払備金」という。）の金額は14百万円であり、同規則第71条第1項に規定する再保険を付した部分に相当する責任準備金（以下「出再責任準備金」という。）の金額は169百万円であります。

### 7. 1株当たりの純資産額は271円45銭であります。

8. 保険業法第 259 条の規定に基づく生命保険契約者保護機構に対する当中間期末における当社の今後の負担見積額は 51 百万円であります。なお、当該負担金は拠出した年度の事業費として処理しております。

9. 金額は、記載単位未満を切り捨てて表示しております。

(中間損益計算書関係)

2020年度中間会計期間

1. 関係会社との取引による収益、費用ともありません。

2. 支払備金繰入額の計算上、差し引かれた出再支払備金繰入額の金額は 5 百万円、責任準備金繰入額の計算上、差し引かれた出再責任準備金繰入額の金額は 91 百万円であります。

3. 利息及び配当金等収入の内訳は、以下のとおりであります。

預貯金利息	0 百万円
計	0 百万円

4. 1 株当たりの中間純損失は 17 円 8 銭であります。

5. 金額は、記載単位未満を切り捨てて表示しております。

(中間株主資本等変動計算書関係)

2020年度中間会計期間

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位：株)

	当期首 株式数	当中間期 増加株式数	当中間期 減少株式数	当中間期末 株式数
発行済株式				
普通株式	4,394,614	-	-	4,394,614
合計	4,394,614	-	-	4,394,614
自己株式				
普通株式	-	-	-	-
合計	-	-	-	-

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項  
該当する事項はありません。

3. 配当に関する事項  
該当する事項はありません。

4. 金額は、記載単位未満を切り捨てて表示しております。

## 7. 経常利益等の明細（基礎利益）

（単位：百万円）

	2019年度 第2四半期(上半期)	2020年度 第2四半期(上半期)
基礎利益 A	△ 857	△ 98
キャピタル収益	-	-
金銭の信託運用益	-	-
売買目的有価証券運用益	-	-
有価証券売却益	-	-
金融派生商品収益	-	-
為替差益	-	-
その他キャピタル収益	-	-
キャピタル費用	-	-
金銭の信託運用損	-	-
売買目的有価証券運用損	-	-
有価証券売却損	-	-
有価証券評価損	-	-
金融派生商品費用	-	-
為替差損	-	-
その他キャピタル費用	-	-
キャピタル損益 B	-	-
キャピタル損益含み基礎利益 A + B	△ 857	△ 98
臨時収益	-	-
再保険収入	-	-
危険準備金戻入額	-	-
個別貸倒引当金戻入額	-	-
その他臨時収益	-	-
臨時費用	25	2
再保険料	-	-
危険準備金繰入額	25	2
個別貸倒引当金繰入額	-	-
特定海外債権引当勘定繰入額	-	-
貸付金償却	-	-
その他臨時費用	-	-
臨時損益 C	△ 25	△ 2
経常利益 A + B + C	△ 883	△ 101

## 8. 債務者区分による債権の状況

該当する事項はありません。

## 9. リスク管理債権の状況

該当する事項はありません。

## 10. ソルベンシー・マージン比率

(単位：百万円)

項目	2019年度末	2020年度 第2四半期 (上半期)末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	3,526	3,381
資本金等	1,268	1,192
価格変動準備金	0	0
危険準備金	494	497
一般貸倒引当金	-	-
(その他有価証券評価差額金(税効果控除前)・繰延ヘッジ損益(税効果控除前)) × 90% (マイナスの場合100%)	-	-
土地の含み損益 × 85% (マイナスの場合100%)	-	-
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	2,414	2,635
負債性資本調達手段等	-	-
全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額	△ 651	△ 944
控除項目	-	-
その他	-	-
リスクの合計額	520	526
$\sqrt{(R_1 + R_8)^2 + (R_2 + R_3 + R_7)^2} + R_4$ (B)		
保険リスク相当額 R1	355	356
第三分野保険の保険リスク相当額 R8	135	137
予定利率リスク相当額 R2	0	0
最低保証リスク相当額 R7	-	-
資産運用リスク相当額 R3	104	118
経営管理リスク相当額 R4	17	18
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	1,355.9 %	1,284.7 %

(注) 上記は、保険業法施行規則第86条、第87条、第161条、第162条、第190条及び平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しています。

### 11. 特別勘定の状況

該当する事項はありません。

### 12. 保険会社及びその子会社等の状況

該当する事項はありません。